

第3期

大刀洗 よかまち

創生プロジェクト（案）



令和7年3月 策定予定

大刀洗町

－ 地方創生総合戦略 －

目次

1. 策定の背景	1
2. 大刀洗町の現状と課題	2
現状	2
課題	6
町の強み	9
3. 策定方針	10
4. 戦略の体系と目標	12
基本目標① 行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。	12
基本目標② 子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。	14
基本目標③ しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。	15
基本目標④ いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。	16
基本目標⑤ 大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。	17
5. 具体的な取組	20
基本目標①	20
①－1 交流を促進する「行ってみたい」	21
①－2 移住・定住を促進する「住んでみたい」	22
基本目標②	23
②－1 出会いから出産までの応援「産みたい」	24
②－2 育む応援「育てたい」	25
②－3 子どもの応援「まなびたい」	26
基本目標③	27
③－1 起業・就業の応援「やってみたい」	28
③－2 魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」	29
③－3 多様な人材の応援「活かしたい」	30
基本目標④	31
④－1 集う繋がるたちあらい「繋がりたい」	32
④－2 健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」	33
④－3 安全・安心のたちあらい「守りたい」	34
基本目標⑤	35
⑤－1 魅力の発見「探したい」	36
⑤－2 魅力の発信「届けたい」	37
6. 戦略の実現に向けて	38

1 . 策定の背景

日本の急速な少子化・高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定された。

法の制定に合わせ、大刀洗町では2015（平成27）年度に「第1期 大刀洗よかまち創生プロジェクト」、2019（令和元年）年度に「第2期 大刀洗よかまち創生プロジェクト」を策定し、人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組むためのプロジェクトを推進してきた。取り組みの成果もあり、2006（平成18）年をピークに減少傾向にあった人口が、近年は微増傾向に転じている。

しかし長期的には今後、少子化・高齢化が一層進展することが見込まれており、人口減少の克服、活力ある地域社会の形成や地域経済の発展などが課題になっている。

そこで、町の実情や第1期、第2期での取り組み及び国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえ、第5次大刀洗町総合計画との整合性を図ると共に、多様な人材の活躍やSociety5.0の推進、SDGsの実現など新しい時代の流れを力にしながら、人口、経済、地域社会の課題に対する取り組みを更に加速化させるため、「第3期 大刀洗よかまち創生プロジェクト」を策定する。

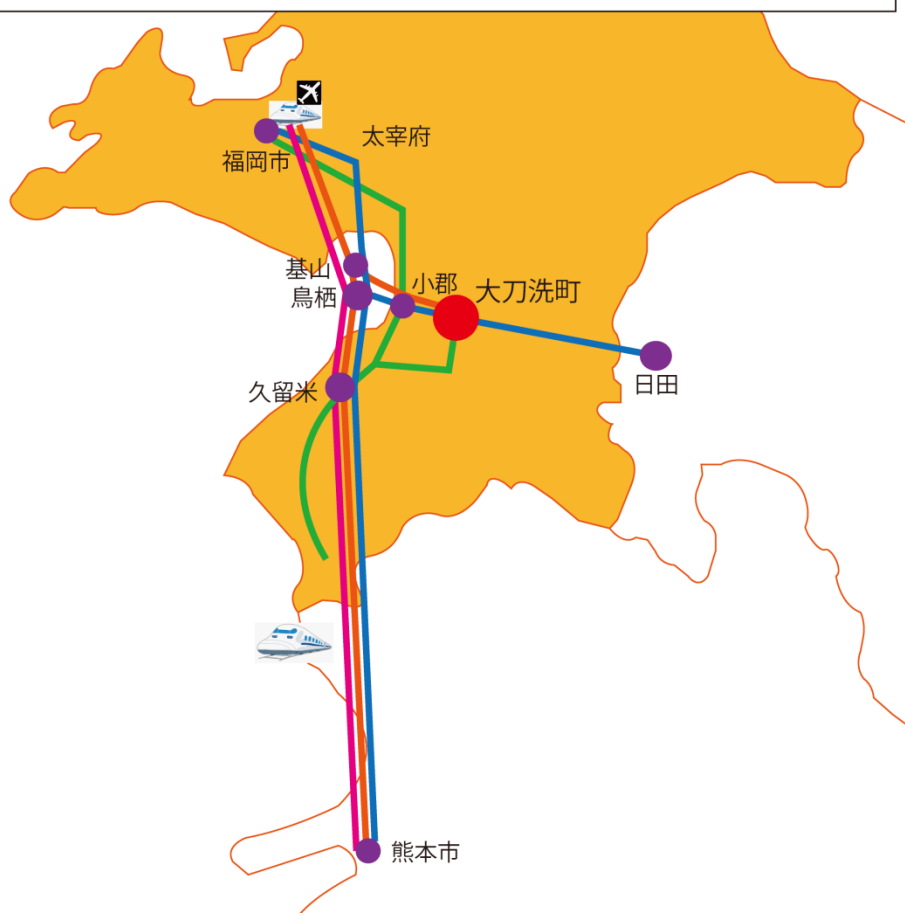
2. 大刀洗町の現状と課題

■ 現状

(まち)

本町は、福岡市及び久留米市などの都市圏に比較的近く、大分自動車道「筑後小郡インターチェンジ」に近いことから、九州内各都市へのアクセスも良く、自動車交通の利便性は高い。

— JR 鹿児島本線、甘木鉄道 西大刀洗 → 基山 → 博多 (計 39 分) (17 分) (22 分)	— 西鉄大牟田線、西鉄甘木線 大堰 → 宮の陣 → 西鉄福岡 (計 61 分) (21 分) (40 分)
— 高速自動車道 大刀洗 → 日田 (60 分) 大刀洗 → 熊本 (90 分)	— 大堰 → 西鉄久留米 (26 分)
	— 九州新幹線 



一方、公共交通は、大分自動車道を走る高速バスのバス停が1つと路線バスのバス停が2つ、鉄道路線が2本あり、鉄道駅も3駅設置されているが、利用者数は減少傾向にある。2022（令和4）年から、利用者負担額を定額、町内全域を運行区域とした「のりあい定額タクシー」の運行を開始し、自力での移動手段をもたない方の日常生活における移動手段を確保している。また、一部の校区において住民有志による校区巡回バス運行事業も実施されている。

地形については、高低差の少ない平坦な田園風景が広がり、緑豊かな恵まれた住環境を有しており、それを活かして近年は、分譲地開発や賃貸住宅の建設が進められている。

コミュニティに関しては、昔からの集落が残っている地区が多く、隣組や行政区など従来からの地縁組織を基本としながら、小学校区を単位とした4校区センターをそれぞれの地域の核として、地域の特色を活かしながら地域力の強化、地域の活性化を進めている。

(ひと)

本町の人口動態を住民基本台帳をもとに分析すると、人口は、2006（平成18）年をピークに減少傾向にあったが、近年は微増傾向に転じている。

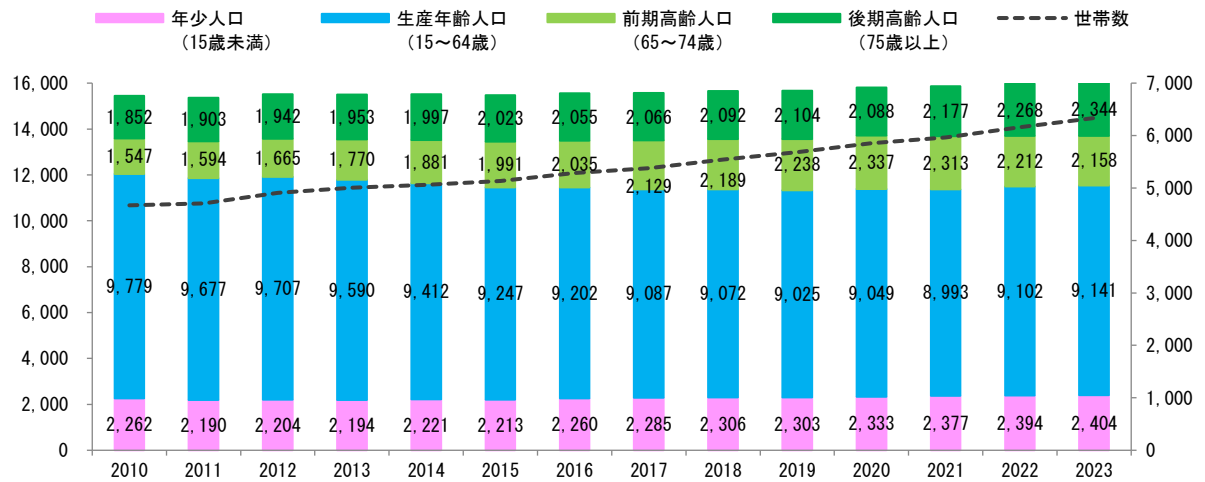
また3区分別人口をみると、年少人口は微増傾向にあるが、生産年齢人口は、2007（平成19）年をピークに減少している。また、老年人口は一貫して増加が続いている。

人口増減の主な要因としては、自然増減（出生、死亡）よりも社会増減（転入、転出）の方が大きな影響力を有している。

世帯数については、人口の動向に関わらず一貫として増加しており、「世帯分離」や「単身世帯」「核家族世帯」の増加により、世帯規模が縮小している傾向がうかがえる。また、近年は外国人人口も増加傾向にある。

菊池校区は、民間による宅地開発等によって人口が増加傾向にあるが、大堰校区の人口は減少傾向にあり、校区や行政区によって人口動態は異なる。人口が減少している地域で、高齢化に伴う担い手の確保や空き家の増加など地域コミュニティの維持における課題が深刻化するおそれがある。一方、人口が増加している地域では、核家族化が進むなかで他市町村からの転入者が増加し、生活が多様化している影響で、従来の地域コミュニティの弱体化、つながりの希薄化が懸念される。

＜年度末人口の推移＞



(注) 2012（平成 24）年から外国人も住基でカウントしている。

(出典) 大刀洗町「住民基本台帳」をもとに作成。

(しごと)

＜農業＞

町面積全体に占める田畑面積の割合（耕地率）が高く、ほとんどの農地が農業基盤整備を完了している。

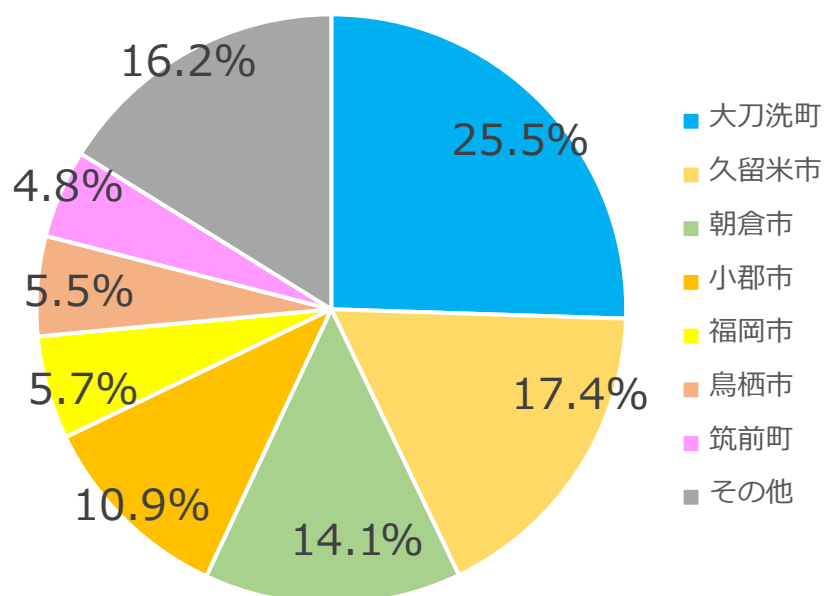
この耕作に適した優良農地を活用し、米・麦・大豆、野菜などの生産農業が盛んである。

＜商工業＞

本町の北部地域に 2 つの工業団地を形成して企業誘致を進め、一定の企業集積が図られている。また、近年整備された工業団地にはインターチェンジに近い等の特性を活かして運輸業や倉庫業の事業所が進出している。

就業者については、約 7 割が町外に勤務しており、そのうち約 2 割が福岡市及び久留米市などの都市圏に通勤している。

＜町内常住就業者数と通勤先構成比＞



(出典) 2020 (令和 2) 年 総務省「国勢調査」

■ 課題

(まち)

<交通弱者の増加>

町が全町的に実施している「のりあい定額タクシー」の運行や一部の校区において、住民有志によるバス運行事業が実施され、自力での移動手段を持たない交通弱者に対する支援を行っているが、将来的には、日常の買い物や通院などに支障をきたす交通弱者の増加が懸念されている。また、自家用車の普及による乗降客数減や運転手不足など路線バスや鉄道を取り巻く環境は厳しさを増している。既存公共交通の維持・確保の観点とあわせて今後も、交通弱者の現状やニーズをしっかりと把握し、効果的で持続性の高い交通対策を実施していく必要がある。

<空き家の増加>

空き家については、2014（平成 26）年 123 戸であったが、2021（令和 3）年の調査では 214 戸と増加しており、高齢者の独居世帯が増加していることを踏まえると、入居者の転居や死亡がそのまま空き家の増加につながる考えられる。空き家の現状把握につとめ、流通促進や利活用につなげていく必要がある。

<地域コミュニティの弱体化>

コミュニティに関しては、独居の高齢者や高齢者のみの世帯などが増加するものと見込まれるなか、地域における見守りが今後ますます重要性を増している。また、近年、増加している分譲地開発や賃貸住宅の建設に伴う他市町村からの転入者の増加や、核家族化、少子高齢化が進む中で、生活の多様化や生活範囲の拡大等により、これまでの地域に根ざしたコミュニティを維持することが難しくなっている。

(ひと)

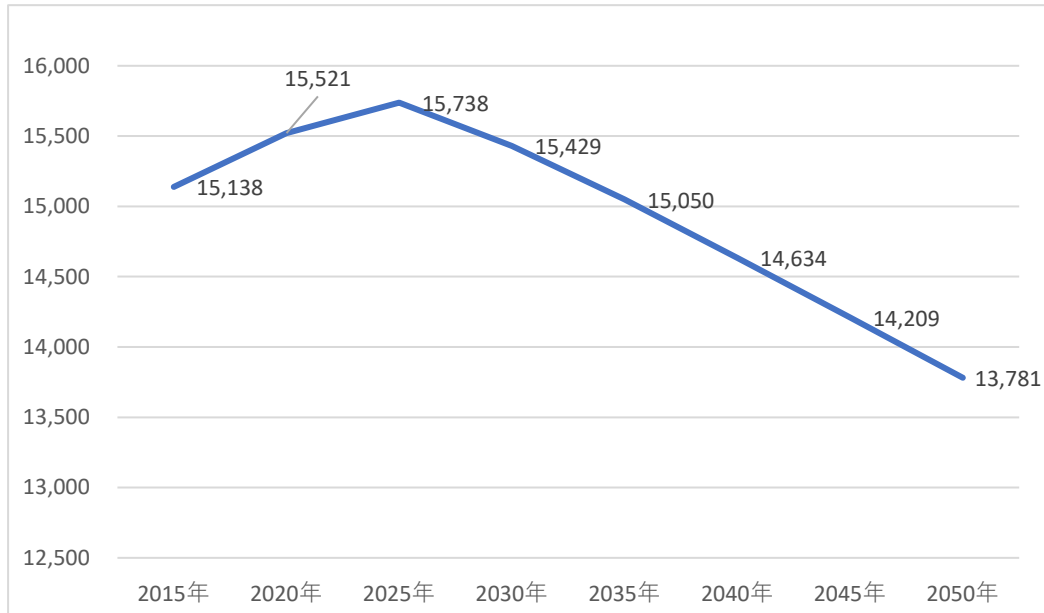
国立社会保障・人口問題研究所の将来人口の推計によると、2020（令和 2）年の国勢調査の人口と比較して 2050（令和 32）年には、総人口が 11.2%減少（15,521 人⇒13,781 人）し、年少人口は 19.6%減少（2,339 人⇒1,881 人）し、生産年齢人口は 19.4%減少（8,798 人⇒7,091 人）、老年人口は 10.5%増加（4,351 人⇒4,809 人）となることが予測されている。

高齢者の増加により、社会保障費用の更なる増加が見込まれるほか、介護等で働き方が制限される人や経済的な負担が発生する人が増加することも予測される。

さらに、生産年齢人口の減少による消費・購買の減少が及ぼす地域経済への影響、各方面の担い手不足など町の様々な面に影響があると考えられる。

※ 3 区分別人口は年齢不詳を含んでいないため、合計と一致しない

＜将来推計人口＞



(出典)2015（平成 27 年）年・2020 年（令和 2 年）は国勢調査実績値

2025（令和 7 年）以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（令和 5 年推計）

(しごと)

農業分野では、高齢化による離農者の増加に対し、新規就農を含めた後継者育成は進んでいない。農地の多面的機能を保全するためにも、後継者の育成が喫緊の課題である。

また、生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足していくことが懸念されており、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が活躍できるよう支援する必要がある。

企業誘致を進めたことで町内において一定の雇用は生まれているが、雇用力のある都市圏で働く人が多いという現状を踏まえると、消費行動等が町外で行われていることも予測され、農商工業等、既存産業の連携の促進や創業支援など、地場産業の活性化にも力を入れていく必要がある。

(魅力発信)

関係人口の増加に向けて、イベントの告知、観光スポットの紹介といった情報発信だけでなく、まちの雰囲気や田舎暮らしの魅力、いきいきとした町民の顔、休日にはどのような活動ができるかなど、日常・当たり前の中にある魅力を伝え、共感してもらえるような情報発信が必要である。

具体的に移住を検討している方に対しては、豊かな生活環境と交通の利便性の両立や、子育て環境が優れている等の具体的なアピールポイントを、町の施策とともに伝えていく必要がある。

また、発信の手段については、広報・ＨＰなど自前のメディアでしっかり発信していくことに加えて、第三者の情報発信（マスコミによる発信・口コミやＳＮＳによる発信）の力を最大限活用していくことが必要である。

受け身、一方通行の情報発信ではなく、相手の視点や立場にたち「いかに伝えるか、どのようにすれば伝わるか」を重視する。

町内に商店街や大規模商業施設、観光施設、集客力のある施設等がないことをもって町民自身が「何もない町」と自己評価する一方で、本町にしかない魅力（ヒト・モノ）は当たり前の風景としてスポットが当ててこられなかった。

ふるさとを誇りに思うシビックプライドを醸成することが一つの課題であり、小学生や中学生、高校生など若いうちから町や地域と関わりをもつ機会を増加させ、郷土愛を醸成するような仕組みを構築していく必要がある。

「住み続けたい」、「選ばれる」町になるために町内外へ本町の魅力をアピールしていくことが課題となる。

■ 町の強み

① 自家用車を利用すると交通の便は良い！

高速道路の筑後小郡インターが近く、九州圏内の移動は容易である。
久留米市、朝倉市、小郡市、筑紫野市、どの方面にも 30 分以内に行くことができる。

② 雇用の場が近隣市町村に充分あり、通勤がしやすい！

久留米市、朝倉市、小郡市、筑紫野市、福岡市、鳥栖市等への通勤が可能である。

③ 大きな病院が近くにあるので安心！

隣接する久留米市には、聖マリア病院や久留米大学病院などの高度先進医療の提供を可能とする病院があり、高度な医療を受けることができる。

④ 家賃、地代が近隣市町村と比較して安い！

住宅地の平均価格が近隣市町村よりも安く、多様でゆとりある住宅の選択が可能である。

⑤ 安心して子どもを育てる環境が整っている！

町内にホタルの生息地がある等、緑豊かな自然に囲まれており、町の治安もよく、幅広い年代が安心して遊ぶことができる公園「大刀洗公園」も整備されている。
また、近隣市町村に比べ保育料が安く、子育てに適した環境が整っている。

⑥ 農作物が豊富に揃っている！

筑後川水系の恩恵を受け水源も豊富であり、基盤整備された優良な耕作地で米・麦・大豆や季節ごとに様々な種類の野菜などが収穫される。

⑦ 誇れる歴史や文化財がある！

赤レンガ造りのロマネスク様式風の教会「今村天主堂（国指定重要文化財）」、奈良時代の地方役所跡の「下高橋官衙遺跡（国指定史跡）」、「西光寺の木造阿弥陀三尊像（県指定文化財）」など、歴史や価値ある文化財が町の中に点在している。

3. 策定方針

■ 計画期間

本戦略の計画期間は、2025（令和 7）年度から 2029（令和 11）年度までの 5 カ年とする。

■ 内容

「大刀洗町人口ビジョン」を踏まえた、大刀洗町オリジナルの戦略とする。

本町の進める「わたしたちが創る 誇れるよかまち たちあらい」を念頭に、町ならではの特色をいかして「活力ある地域コミュニティ」を維持していくために、町を活性化させるとともに、人口減少に伴い生じる様々な課題に備え、将来にわたり安心して暮らしを営むことが出来るよう戦略を策定する。

■ 検討体制

大刀洗町まち・ひと・しごと
創生総合戦略審議会

戦略の策定にあたり、住民・産業界・教育機関・金融機関・言論界など、多様な主体の意見を反映するため、大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を設置する。

大刀洗町まち・ひと・しごと
創生総合戦略策定委員会

まち・ひと・しごと創生に全庁横断的に取り組むため、副町長を中心とし各所属長で構成された委員会を設置する。

■ 目標設定

戦略は、明確な目標を設定し、目標の達成度合いを検証できるよう、客観的な指標（KPI）※を定める。計画の終期である2029（令和11年）度にKPIの達成を目指すもの。

※ K P I（重要業績評価指標）

Key Performance Indicatorの略。

政策ごとの達成すべき成果目標。

■ S D G s（持続可能な開発目標）

戦略は、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2016（平成28）年から2030（令和12）年までの国際開発目標である「S D G s（持続可能な開発目標）」の理念と関連させ策定する。

●持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる。



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行なう。



目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標9【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。



目標10【不平等】

国内及び各国間での不平等を是正する。



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する。



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

4. 戦略の体系と目標

■ 将来展望（目指すべき姿）

大刀洗町が将来にわたって“よかまち”であり続けるために、「活力ある地域コミュニティの維持」を目指すべき姿とする。

■ 基本目標と基本的方向

【基本目標】

① 行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。

本町の人口動態を分析すると、転入・転出者数ともに、人口に対する割合が他の自治体に比べ高い。多く転入して、多く転出する状況である。また、自然増減よりも社会増減が人口増減に大きな影響を与えている。

社会増減改善のために必要な点として、移住人口の増加（転入者を増やす）のための交流・関係人口拡大施策を進めるとともに、転出抑制のため移住者を含めた現在の大刀洗町民の定住化を促進する。

人口が減少傾向にある大堰校区へは、第5次総合計画策定時の校区别構想において「人口減少をポジティブに乗り切ろう」とあることや大堰校区の強み、特色を踏まえ、住民との対話を重ねながら、人の流れをつくる移住促進策や関係人口施策等を検討する。

（KPI：社会増減（転入者数－転出者数）0人以上を目指す。）

【基本的方向】

交流を促進する

移住・定住を促進する

「行ってみたい」
「住んでみたい」

【関連するSDGs】



【基本目標】

② 子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。

転出入共に、20～40代の動きが多いため、「子育て世代」の転入を促し、転出を抑制する施策が有効であると考える。

また、「子育て世代」が増加することにより自然増減（出生－死亡）はプラスに転じ、年少人口及び生産年齢人口の割合は改善されてくる。

こども家庭センターを中心に妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行いながら、町の支援制度や子育ての取組を知ってもらい、活用してもらうために的確に情報発信を行いながら、支援の質を高めていく。あわせて、子どもたちの町での生活や学びの質を高め、健やかに成長していくよう「地域で育つ子どもの視点」を大切にしつつ、行政、地域、学校、家庭、企業が一体となって施策を展開していくことで「子育て世代」「子どもたち」にとって魅力的な町を実現する。

（KPI：出生率 1.63 以上 を目指す。）

（KPI：年少人口の割合 13.6%以上 を目指す。）

【基本的方向】

出会いから出産までの応援

育む応援

子どもの応援

「産みたい」

「育てたい」

「まなびたい」

【関連するSDGs】



【基本目標】

③ しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。

町に新たな雇用を創出するため、起業意欲のある方の支援「やってみたい」という気持ちを後押しする。

また、町内にある既存産業が持続可能な経営ができるように、後継者等の人材育成、商品の魅力向上（＝付加価値）、道の駅の設置検討、地産地消の推進、同・異業種間ビジネスマッチング等に積極的に取り組み、行政、商工会、農業協同組合、金融機関が一体となって地元産業を応援し、地域で経済が循環する仕組みを構築することで、次世代に誇れる農・商・工業を実現させる。

生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足していくことが懸念されている。一方で、社会の多様化により働き方やビジネスモデルにも変化が生じている。

そのため、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が安心して働き、活躍できるよう支援する。

（KPI：町内事業所の従業員数 5,272 人以上 を目指す。）

（KPI：耕作放棄地 1 %未満を目指す。）

【基本的方向】

起業・就業の応援

魅力ある農・商工業の応援

多様な人材の応援

「やってみたい」
「誇りにしたい」
「活かしたい」

【関連するSDGs】



【基本目標】

④ いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

町民が、「いつまでも大刀洗町で暮らしたい。」と感じられるように、自分たちのまちへの興味・関心が向上する取り組みを実施し、町民が集い・繋がりながら活動するなかで、新たな担い手の確保・育成を促し、まちへの愛着・誇りを醸成する。

また、いつまでも健康でいきいきと充実した生活が営めるように、健康増進施策を充実させ、健康寿命の延伸を図る。

いつまでも安全に安心して快適な生活を営むことができるように、地域全体の防災・防犯力の強化や交通施策等の充実を図る。

(KPI : 「将来も大刀洗町に住み続けたい」と思う割合 80%以上 を目指す。)

【基本的方向】

集う繋がるたちあらい	「繋がりたい」
健康長寿のたちあらい	「いきいきしたい」
安全・安心のたちあらい	「守りたい」

【関連するSDGs】



【基本目標】

⑤ 大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

町にある魅力的な地域資源（ヒト・モノ）を掘り起こし、それを磨き上げ、魅力を向上させる取り組みを行う。

「大刀洗町には何もない」というイメージを払拭するため、町の魅力をみんなで共有する。また、町に当たり前にあるヒト・モノ・風景は町の外（外部の視点）から見たら、非日常な魅力となりうることから、町内外に大刀洗町ファンをつくり、巻き込み、みんなで大刀洗町の魅力を発信していく。

（KPI：たちあらい応援大使の人数 1,500 人以上 を目指す。）

（KPI：大刀洗町公式 SNS のフォロワー等件数 12,000 件以上 を目指す。）

【基本的方向】

魅力の発見 「探したい」
魅力の発信 「届けたい」

【関連するSDGs】



【横断的視点】

今後、町において生産年齢人口の減少や高齢化に伴う地域の担い手不足が見込まれている。また、複雑化・高度化した住民ニーズや地域課題や社会の変容に対応しまちづくりをすすめる、5つの基本目標の取り組みを行ううえで、次の2つの視点をもって取り組む。

①デジタル技術を活用したまちづくり

これまでマイナンバーカードを活用した住民票の写し等のコンビニ交付サービスや、素早い情報発信、区長業務の負担軽減のための電子回覧板、町税等のキャッシュレス決済導入等、様々な分野においてデジタル技術の活用に取り組んできた。今後も、町に合った自治体 DX を進め、豊かなまちづくりを推進する。

(KPI：オンライン申請利用率 75%以上を目指す。)

主な取り組み	●フロントヤード改革事業（書かない窓口） ●町公式 LINE の機能拡張
--------	--

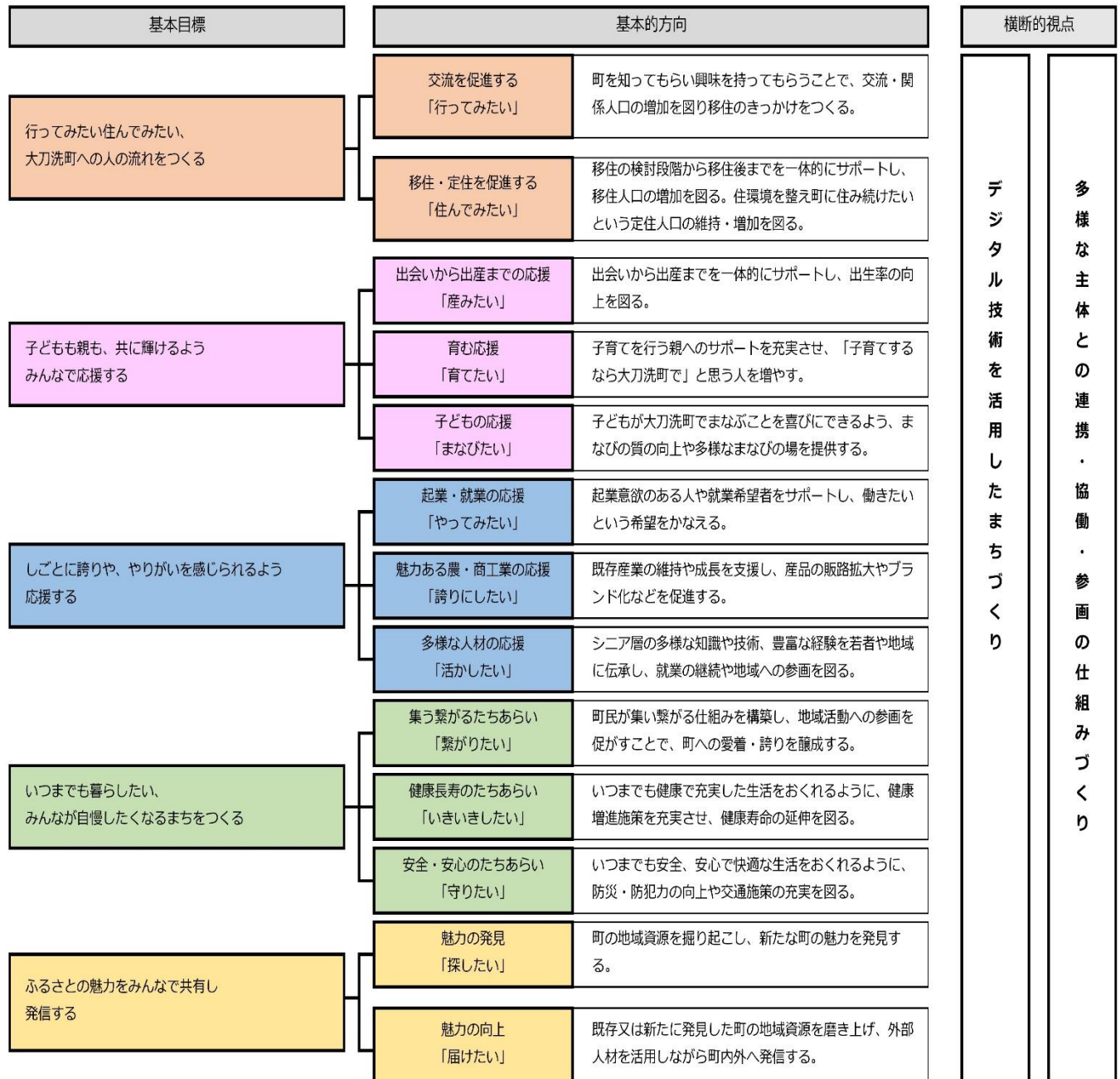
②多様な主体との連携・協働・参画の仕組みづくり

複雑化した地域課題の解決や地域づくりへの新たな担い手確保の観点から、様々な主体（企業・教育機関・福祉事業所等）の知識とノウハウを共有しながら連携・協働し、参画する仕組みづくりを構築していく。

(KPI：連携協定件数 50 件以上を目指す。)

主な取り組み	●健康づくり事業（保育園・小学校での食育、ウォーキングイベント等） ●大刀洗みらい研究所 ●複業人材の活用
--------	---

■ 体系図



5. 具体的な取組

基本目標①

行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。

KPI（数値目標）

- ・社会増減（転入者数－転出者数） 0人以上 を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

①－１：交流を促進する「行ってみたい」

①－２：移住・定住を促進する「住んでみたい」

①－１：交流を促進する「行ってみたい」

大刀洗町に「定住」してもらうためには、「移住」してもらう必要があるが、そのためには大刀洗町を知る→交流する→ファンになる（町の持つ魅力や価値に共感する）というプロセスを欠かすことができない。

田園の広がる豊かな自然風景や福岡都市圏や中核市である久留米市にも近いなど交通利便性の良さを活かして、大刀洗町への交流を促進する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆町産品を活用したイベントの開催 町産品を活用したイベントを実施し、イベントを機に町への来訪者を増やす。	◆来場者数 ⇒ 10,000 人/年
主要事業②	◆ワーケーション事業 都市圏で働く方を対象としたワーケーションプランを作成、町の暮らしを体験してもらうことで交流・関係人口づくりを行う。	◆ワーケーション後も町の関係人口となっている人数 ⇒ 30 人/年
主要事業③	◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」 「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」のなかで「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。	◆久留米圏域の人口と人口推計の比較 ⇒ 5,374 人
主要事業④	◆レンタサイクル事業 町に訪れた方が町内を巡回し、観光スポットや商店へ移動しやすいようにレンタサイクルを実施する。	◆利用者数 ⇒ 24 人/年
その他 関連事業	・ひばりロードふれあいマラソン大会	

①－２：移住・定住を促進する「住んでみたい」

大刀洗町の魅力や価値に共感いただいた方や、結婚や就職といったきっかけで引越することになった方達に、恵まれた子育て支援策や住宅施策等をアピールして、大刀洗町への移住・定住を後押しする。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆定住促進住宅整備事業 子育て世帯をメインターゲットとするマンションを民間企業と連携しながら整備し、維持管理する。	◆入居率 ⇒ 90%以上
主要事業②	◆移住希望者への情報発信強化事業 町ホームページ移住サイトや移住・定住支援BOOK等を活用し、移住希望者への情報発信を強化し、必要な情報を届ける。	◆町移住サイトの閲覧数 ⇒5,000PV／年
主要事業③	◆移住・定住相談事業 移住・定住に役立つ情報をまとめたワンストップ窓口を企画財政課内に設置する。オンライン対応など相談しやすい環境を整える。	◆相談窓口利用件数 ⇒ 18 件/年
主要事業④	◆移住支援金交付事業 三大都市圏から就業又は起業を伴い町に移住した場合に、移住にかかる費用の支援として支援金を交付する。	◆交付件数 ⇒ 2 件/年
主要事業⑤	◆空き家利活用総合プロジェクト 空き家の情報を提供できるシステムを活用し、不動産業者等と連携を図りながら、空き家の所有者と移住希望者のマッチングを行い、空き家のフル活用を目指す。	◆空き家の活用件数 ⇒ 3 件/年
主要事業⑥	◆住宅改修補助金交付事業 住んでいる住宅を町内の施工業者によって改修をした場合に、その費用の一部を補助する。	◆移住後 1 年以内に完了する住宅改修に対する交付件数 ⇒ 2 件/年
		■空き家の改修に対する交付件数 ⇒ 2 件/年
その他 関連事業	・大都市圏等における移住促進事業【広域連携】 ・住宅性能向上改修の補助	

基本目標②

子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。

KPI（数値目標）

- ・ 出生率 1.63 以上 を目指す。
- ・ 年少人口の割合 13.6%以上 を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

②－１：出会いから出産までの応援「産みたい」

②－２：育む応援「育てたい」

②－３：子どもの応援「まなびたい」

②－１：出会いから出産までの応援「産みたい」

出会いから出産までを一体的にサポートし、出生率の向上を図る。また、出産までのサポートに留まらず、産後のケアについても充実させる。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆こんにちはお母さん事業 産後の母親の心身の安定や、育児不安の軽減を図るため、産後ケア事業者と連携し、産後に不安を抱える方を支援する様々な種類のケアメニューを導入する。	◆相談できる環境が整っている人の割合 ⇒ 98%以上
主要事業②	◆結婚生活支援金事業 婚姻に伴う経済的負担を支援するため、住宅費用、住宅リフォーム費用及び引越し費用の一部を補助する。	◆交付件数 ⇒ 20 件/年
その他 関連事業	・ パパママ学級事業 ・ 妊婦健康診査補助事業 ・ 乳児家庭全戸訪問事業	

②－２：育む応援「育てたい」

子育てを行う親のサポートを充実させ、「子育てするなら大刀洗町で」という方を増加させる。また、親のみのサポートに留まらず、地域で一体となり子どもを育てる仕組みを構築していく。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆イキメン創生プロジェクト事業 男性の子育て・地域活動への積極的な参画を促すために、意識を変えるための講座を実施する。	◆参加者数 ⇒ 120 人/年
主要事業②	◆子どもへの暴力防止プログラム事業 町職員、学童保育所指導員、保育園・小学校・中学校の児童、教職員、保護者向けの「子どもへの暴力防止プログラム」ワークショップを実施する。	◆参加者数 ⇒ 980 人/年
主要事業③	◆保育士奨学金返済支援事業 町内の保育園に勤務する保育士が奨学金を返還している場合に、その費用の一部を補助する。	◆定員を下回って受け入れる保育園ゼロの維持
主要事業④	◆出生記念品（大刀洗ベビーギフト）事業 新生児を出産した保護者を対象に、町内のつくり手が「もの・コト」ギフトを提案するカタログを送付し、出産後の暮らしを応援する。	◆活用人数の割合 ⇒ 40%
主要事業⑤	◆子育て世帯への情報発信強化事業 母子モや町ホームページ子育てサイト等を活用し、子育て世帯に向けた情報発信を強化し、必要な情報を届ける。	◆町子育てサイトの閲覧数 ⇒6,000PV/年
その他 関連事業	・保育料多子減免事業 ・病後児保育事業 ・学童保育事業 ・子育て相談事業 ・乳幼児医療費補助事業 ・延長保育事業 ・子育て支援センター事業 ・病児・病後児保育事業【広域連携】 ・小児救急医療支援事業【広域連携】	

②－３：子どもの応援「まなびたい」

子どもが、大刀洗町でまなぶことを喜びにできるよう、「まなびの質」を向上させる。

学び＝学問だけではなく、町の特色を活かした多種多様な「まなびの場（機会）」を提供することで郷土愛を育み、まなびたいと考える子どもを後押しする。また、子どもたちが健やかに育つよう地域での居場所づくりを応援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆コミュニティ・スクール事業 学校運営に、保護者や地域の方が参画することで、学校と地域の力を合わせ、それぞれの立場で主体的に地域の子どもたちの成長を支援する。	◆保護者・地域等ののべ活動者数 ⇒ 1,000 人/年
主要事業②	◆子どもの居場所づくりの支援・検討 学童保育所以外にもアンビシャス広場やチャレンジ教室など子どもが自分らしく過ごせる場所や友だちと関わることのできる場所を地域全体でつくる取り組みを支援・検討する。	◆子どもの居場所数 ⇒ 15 か所
その他 関連事業	・ 特別支援教育総合推進事業 ・ G I G A スクール構想 ・ こども自立サポートセンタードリーム	

基本目標③

しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。

KPI（数値目標）

- ・ 町内事業所の従業員数 5,272 人以上 を目指す。
- ・ 耕作放棄地 1 %未満を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

- ③－ 1 :起業・就業の応援「やってみたい」
- ③－ 2 :魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」
- ③－ 3 :多様な人材の応援「活かしたい」

③－１：起業・就業の応援「やってみたい」

企業等へ就職を希望する方をサポートするとともに、起業意欲のある方を後押しできるような取り組みを行い、やってみたい、働きたいという希望を後押しする。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆創業支援相談事業 商工会と金融機関と連携し、起業に関するワンストップ窓口を設置し、起業希望者向けのセミナー等を実施する。	◆事業を通じた起業件数 ⇒ 6件/年
主要事業②	◆創業・新事業展開支援補助金交付事業 町内での創業や新事業展開に必要な経費の一部を補助する。 ※移住や雇用増の場合増額する（＋10万円）（最大60万円）	
主要事業③	◆求人情報等掲載事業 町内事業所の求人情報等を町ホームページや役場等に掲載し、町内事業所の人材確保につなげる。	◆就業マッチング数 ⇒ 30件/年
主要事業④	◆親元就農支援事業 親から経営を引き継ぎ、農業を始める方に支援を行う。	◆事業を通じた就農人数 ⇒ 3人/年
その他 関連事業	・農地中間管理事業 ・農業委員会農地斡旋事業 ・次世代農業者育成事業	

③－２：魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」

町内にある既存産業が、持続可能な経営ができるように、商品に付加価値をつけたり、ビジネスマッチングなどを行う取り組みを応援する。

また、地産地消の取り組みを推進し、地域での経済が循環できるよう支援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆消費喚起プレミアム商品券発行事業 町内事業所での消費を喚起するための商品券を発行する。	◆商品券による町内消費金額 ⇒ 1.2 億円/年
主要事業②	◆大刀洗町活性化企業会 町内企業の連携を強化するため、新たな企業組織を構築する。交流会や支援セミナーを開催し、新たな企業間のビジネスマッチングや、地域課題の解決を図る。	◆参加企業数 ⇒ 30 件
		◆企業会を通じた連携数 ⇒ 10 件/年
主要事業③	◆ふるさと応援寄附事業 町内産品の魅力を伝え、町外から寄附を集めることで町内事業者の活性化を図る。	◆応援寄附受入額 ⇒ 12 億円/年
主要事業④	◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。	◆久留米圏域の就職者数 ⇒ 6,782 人
その他 関連事業	・集落営農組織法人化支援事業 ・園芸施設等整備事業 ・道の駅の設置検討 ・物産展共同開催事業【広域連携】 ・広域商談会開催事業【広域連携】	

③－３：多様な人材の応援「活かしたい」

生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足することが懸念される一方で、社会の多様化により働き方やビジネスモデルにも変化が生じている。

そのため、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が活躍できるよう支援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆町民参加型マルシェ支援事業 高齢者、女性、障がい者、外国人など多様な人材が参加する市場を運営・支援する。	◆事業参加者数 ⇒ 100 人
主要事業②	◆シルバー人材センター事業 就労の意欲をもつ 65 歳以上の高齢者に対し、その能力に応じた雇用・就労の機会を提供できるよう支援する。	◆登録者数 ⇒ 100 人
主要事業③	◆求人情報等掲載事業【再掲】 町内事業所の求人情報を町ホームページや役場等に掲載し、町内事業所の人材確保につなげる。	◆就業マッチング数 ⇒30 件/年
その他 関連事業	・就労移行支援事業	

基本目標④

いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

KPI（数値目標）

- ・「将来も大刀洗町に住み続けたい」と思う割合 80%以上を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

④－１：集う繋がるたちあらい「繋がりたい」

④－２：健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」

④－３：安全・安心のたちあらい「守りたい」

④－１：集う繋がるたちあらい「繋がりたい」

地域への興味・関心が向上する取り組みを行うとともに、住民が集い、繋がる仕組み、きっかけづくりを行うことで、新たな担い手の確保・育成を促し、地域への愛着や誇りを醸成、地域活動への参画を促進する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆公共空間活性化事業 公共空間を利用した町外者を含む体験型講座を自ら企画開催する方に対し、開催に係る費用の一部を助成する。	◆体験講座開催件数 ⇒ 12 件/年
主要事業②	◆対話推進事業 対話によるまちづくりを進める、地域のなかで対話を進める人や主体的にまちづくりに関わる人づくりを進める。	◆町民の対話事業参加人数 ⇒150 人/年
その他 関連事業	・校区センター活動の支援 ・地域おこし協力隊の配置 ・ドリームまつり ・町民体育大会	

④－２：健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」

いつまでも健康で充実した生活を営むことができるよう、健康増進施策を充実させ、町民の健康寿命の延伸を図る。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆通いの場の補助金交付事業 高齢者の生きがいづくりや健康づくりを行うサロンの運営に町が補助金を交付する。	◆通いの場所数 ⇒17 件/年
主要事業②	◆大刀洗町健康ポイント事業【広域連携】 健康寿命の延伸を目指し、町民に対して健康づくりを広く呼びかけるとともに、日常的な運動や町や地域が開催する健康づくりに対する取り組みへの参加に応じて健康ポイントを付与する。	◆特定健康診査 受診率 ⇒ 60%
その他 関連事業	・健康体操推進事業 ・高齢者補聴器購入費助成事業	

④－３：安全・安心のたちあらい「守りたい」

いつまでも安全に安心して快適な生活を営むことができるまちであるために、防災・防犯力の強化や交通施策等の充実を図る。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆のりあい定額タクシー事業 移動手段を充実させるため、タクシー事業者と連携し、利用者負担を定額とする乗合タクシーを運行する。	乗車人数 ⇒20 人/日
主要事業②	◆公共交通利便性向上・利用促進事業 利用者数が減少している鉄道・バス事業者と町イベントでの連携や公共交通マップ作成等をととして公共交通の維持・確保を行う。	◆鉄道の乗降客数 ①大堰駅 369 人/日 ②本郷駅 365 人/日 ③西太刀洗駅 184 人/日
主要事業③	◆防災士育成事業 地域の防災力を強化するため、各校区において高い防災知識を有する防災士を育成する。	防災士の地域での活動件数 ⇒ 4 件/年
その他 関連事業	・ 防災組織強化事業 ・ 防犯・交通整備事業 ・ 町道維持補修事業	

基本目標⑤

大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

KPI（数値目標）

- ・たちあらい応援大使の人数 1,500 人以上を目指す。
- ・大刀洗町公式 SNS のフォロワー等件数 12,000 件以上 を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

⑤－１：魅力の発見「探したい」

⑤－２：魅力の発信「届けたい」

⑤－１：魅力の発見「探したい」

町にある魅力的な地域資源（ヒト・モノ）を掘り起こすため、町を見つめ直し、新たな町の魅力を発見する。また、町民も発信の主体となる取り組みを検討し、町への愛着を育てながらともに魅力を発信する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆広報「たちあらい」つながるコーナー事業 町で輝く人にスポットをあて広報紙で紹介し、町民同士の繋がりや、暮らす人々の魅力を発信する。	◆紹介件数 ⇒ 12 件/年
主要事業②	◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。	◆久留米圏域の 直接消費額 ⇒ 19,319 百万円
その他 関連事業	・残したいふるさとの風景事業	

⑤－２：魅力の発信「届けたい」

情報の共有と拡散を担う外部の人・拠点を活用し、発見した魅力は、磨きあげる。町の魅力ある情報を町内外へ届ける取り組みを行う。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆たちあらい応援大使事業 町に縁や愛着を持つ人を町公認の大使に任命し、各人ができる広報活動を通して、町の魅力やイベント情報の発信を行う。	◆応援大使の人数 ⇒ 1,500 人
		◆応援大使の活動件数 ⇒150 件
主要事業②	◆たちあらい応援大使店舗事業 町外に「たちあらい応援大使店舗」を募り、加盟店舗に大刀洗の食材のPRの一端を担ってもらうことにより地域ブランド力の向上を図る。	◆応援大使店舗数 ⇒ 30 店舗
主要事業③	◆FLAT 事業 暮らしの中にある身近な魅力スポット（アナバ）を町民等が紹介する冊子を作成する。	◆スポット紹介件数 ⇒ 120 件
主要事業④	◆広報モデル事業 広報たちあらいの表紙や町の事業のポスターやチラシなどに登場し、広報に協力いただける方を広報モデルとして登録する。	◆活用人数 ⇒ 10 人/年
その他 関連事業	・ラジオ放送事業【広域連携】 ・イベント情報・観光ルートパンフ作成事業【広域連携】 ・インターネット情報提供「ちくご遊学」運営事業【広域連携】 ・まち旅博覧会開催事業【広域連携】 ・歴史遺産等活用事業【広域連携】	

6. 戦略の実現に向けて

■ 推進体制

戦略の目標を実現するために、行政のみならず、町民や地域、それぞれの分野における関係団体と連携して施策を実施していく。

また、PDCAサイクル※に基づき、外部有識者等の意見も踏まえ、実施した施策や事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するものとする。

※ PDCAサイクル

PLAN（計画）DO（実施）CHECK（評価）ACTION（改善）

4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。